

七年かけ再現、跡の和からし 繊細な香りと独特の辛み



からしの花



からしの花

取組みの成果

当初、昔ながらの跡地区の「からし」

を再生するために、三川町で約50年間、

自家消費用として「からし」を栽培

している方から種を分けてもらい栽培

したが、9割が失敗だった。梅木さ

んが教えてくれるとおりに、「葉っぱ

のきざみが深くて、茎が色をつくもの

だけを残して」と言わされたが、それに

合うものは1割程度しかできなかつた。

その1割から種を取り続けて、何

度も何度も栽培試験を繰返しながら、

7年かけて梅木さんの記憶に残つてい

る「からし」の種を再生することに

成功した。そして、収穫したものを作

成商品化し、販売することになった。

100gで2000円と高額な商品

にもかかわらず、一度使用したプロの

料理人からの評判もよく、また、料

理として食べた消費者からも購入し

たいとの要望があるが、品薄のため対

応できないほど、注文に対しても生産が

追付いていないのが現状である。

「和からし」は「洋からし」にない纖



広大な畑いっぱい、美しく咲く和からしの花



ハウスには、全国の伝承野菜が栽培されている。

子どもの目線で見えるように、車椅子でも通れるようにつくられている。

商品化された本和からし
すぐに売り切れてしまう。

事業者概要



ハーブ研究所スパール

代表者 山澤 清
住 所 東田川郡庄内町狩川字今岡128-1
電 話 0234-56-3883
FAX 0234-51-2048
URL <http://shop.herbkenkyujo-spur.jp>

野菜やハーブで作った
石鹼、化粧品

徵となつていて、山澤代表は、「この味を知ると和からしの魅力の虜になる人も多い」と語っている。

今後の事業展開

「跡の本和からし」は、料理マスター・ズ俱楽部が主催する「料理マスター・ズブランド認定品」として認定されている。また、購入希望が多い中、生産が追いつかない状況のため、商品量を確保することが課題となつており、跡地区の希望者には種を無料で提供して栽培してもらうような取組も行つていて。この他にも、農薬や化学肥料を使わずに生産した野菜やハーブで作った石鹼、化粧品の製造販売を行つていて。これらは、アトピーなどに悩む子供と親のために開発した商品で、インターネットから購入す

ることができる。石鹼は、委託を受けて製造したものが、パリや上海などで赤ちゃん用石鹼としても販売されている。新たな事業としては、羽黒町の伝承野菜を栽培しているハウスに隣接する土地に、当社で栽培している野菜を提供するレストランをオープンするため、3年かけて準備を進めている。これからも、今後の日本の農業のために、農薬や化学肥料を使わない本来の農業の姿を実現することを目指したいと考えている。

若い頃に農業技術者として農薬散布指導の仕事に従事していたが、農薬がまかれた農地やその周辺の環境が変わついくことを危惧し、このままで日本の農業が崩れてしまうと感じたことから、昭和55年に同研究所を発足した。

そして、最上川の肥沃な河川敷の広大な農地に農薬や化学肥料を一切使わずにハーブの栽培を始めた。

また、平成25年には、農事組合法人大日本伝承野菜研究所を設立し、羽黒町に約300坪のハウスを建設した。ここでは、全国各地から種苗を取寄せて、約500種類の伝承野菜（在来野菜）の栽培をしながら、全国に伝承野菜のネットワークを形成している。

種子の保存を行いながら、伝承野菜の栽培と研究を重ねて、これから安心安全な農業経営の向上に取り組んでいる。

現在は、土地改良により稻作が可能になつたため、「からし」の栽培は行われなくなつていて。山澤代表は、この跡地区で昔から作つていた「からし」を再生させたいと考えて、種子を持つている人を探していたところ、梅木志げさんと出会うこととなる。山澤代表は、梅木さんからこの地区に伝わる「からし」栽培の歴史や「からし」を再生させたいとの想いを聞き、自ら種を再生しようと試みることにした。

山澤代表は、梅木さんからこの地区に伝わる「からし」栽培の歴史や「からし」を再生させたいとの想いを聞き、自ら種を再生しようと試みることにした。

そして、7年間の栽培試験を繰返しながら、昔から跡地区に伝わる本物の「和からし」の商品化に成功した。

6次産業化の取組に至った経緯

ハーブ研究所スパールの山澤代表は、若い頃に農業技術者として農薬散布指導の仕事に従事していたが、農薬がまかれた農地やその周辺の環境が変わついくことを危惧し、このままで日本の農業が崩れてしまうと感じたことから、昭和55年に同研究所を発足した。

古くから「からし」の产地とされていた。この地区は、稻作に適さない水はけがよい土地だったため、青大豆、麦、からし等の水がなくとも育つ、乾燥に強い作物を栽培していた。また、栽培した「からし」を粉にして販売していたという歴史がある。

6次産業化の取組内容

ハーブ研究所スパールの山澤代表は、

、

庄内町（旧余目町）の跡地区は、古くから「からし」の产地とされていた。この地区は、稻作に適さない水はけがよい土地だったため、青大豆、麦、からし等の水がなくとも育つ、乾燥に強い作物を栽培していた。また、栽培した「からし」を粉にして販売していたという歴史がある。